

# 東京応化工業株式会社 決算説明資料

-2016年3月期第2四半期決算-

2015年11月6日

# 目次

- 1.2016年3月期第2四半期連結決算** p.2
- 2.2016年3月期通期連結決算予想** p.12
- 3.トピックス～戦略投資の加速～** p.19

**2016年3月期第2四半期  
連結決算**

# 業績概要

(百万円、%)

	2014/9	2015/9		
			増減	増減率
売上高	42,057	44,805	+2,747	+6.5
営業利益	6,707	7,271	+563	+8.4
経常利益	7,080	7,441	+361	+5.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,895	4,898	+3	+0.1

- 期中平均為替 (US<sup>ドル</sup>) : 102.2円/<sup>ドル</sup> (2014/9) ⇒ 120.8円/<sup>ドル</sup> (2015/9)
- 売上高 : 材料事業では第2四半期の増収率が低下したが、ArF、KrF、高密度実装材料の主要3製品の拡大が続き、増収を確保。
- 営業利益 : 減価償却費の増加はあったが、材料事業の増収効果等から、期初予想 (2015.5.8発表) を上回り、増益を確保。

# 営業外損益・特別損益

(百万円)

	2014/9	2015/9	前年比
<b>営業外損益</b>	<b>372</b>	<b>170</b>	<b>△201</b>
(営業外収益)	(543)	(413)	△129
受取利息・配当金	121	157	+36
為替差益	313	-	△313
持分法による投資利益	26	84	+58
(営業外費用)	(170)	(242)	+71
デリバティブ評価損	-	57	+57
新工場関連費用	161	-	△161
操業準備費用	-	85	+85
<b>特別損益</b>	<b>584</b>	<b>△57</b>	<b>△642</b>
(特別利益)	(622)	(2)	△619
退職給付制度改定益	622	-	△622
(特別損失)	(37)	(60)	+22
減損損失	15	51	+36
その他	22	8	△22

# 事業別セグメントの業績

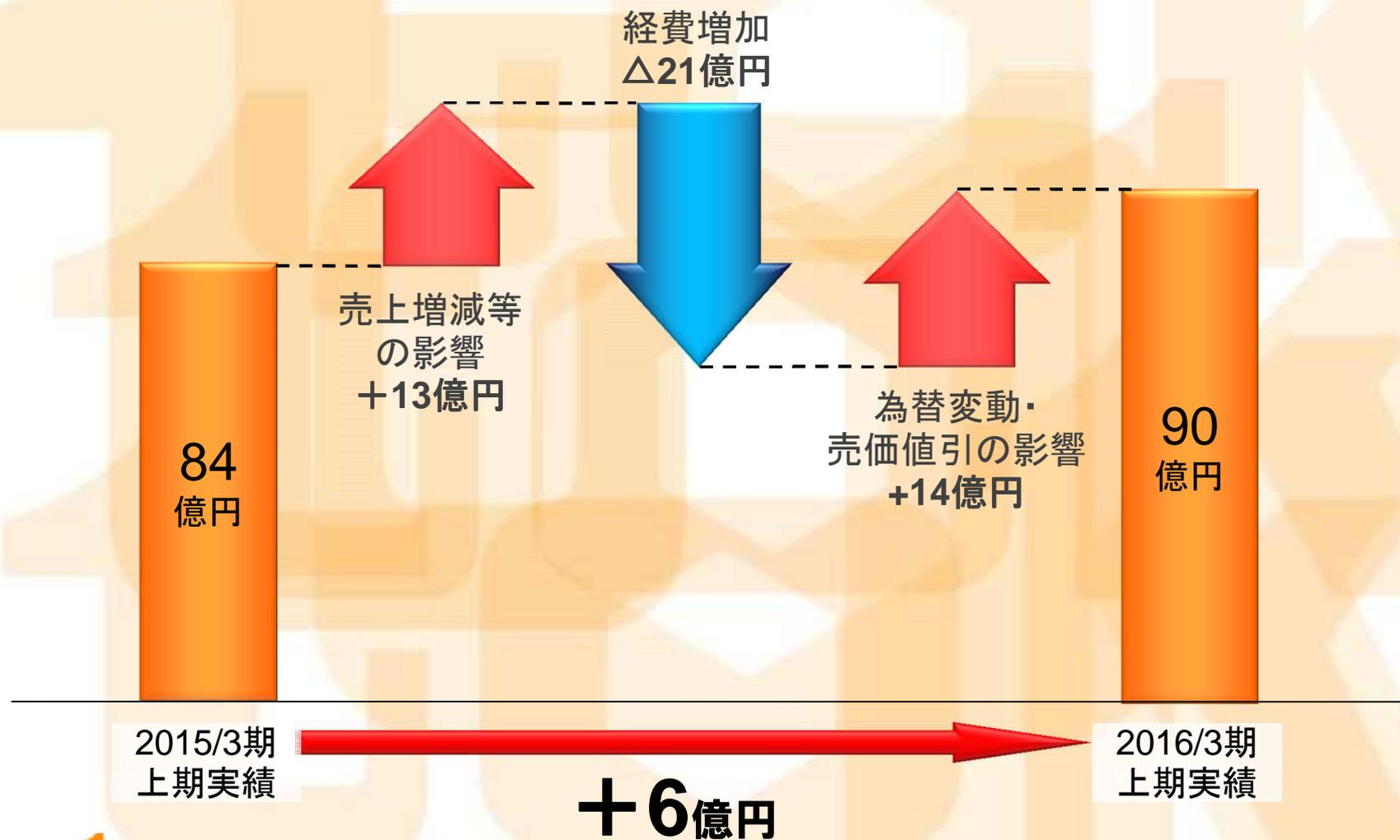
(百万円、%)

	2014/9	2015/9	
		増減	増減率
売上高	42,057	44,805	+2,747 +6.5
材料事業	40,557	43,835	+3,277 +8.1
エレクトロニクス機能材料	24,127	25,420	+1,292 +5.4
高純度化学薬品	16,304	18,309	+2,004 +12.3
その他	125	105	△19 △15.6
装置事業	1,499	969	△529 △35.3
営業利益	6,707	7,271	+563 +8.4
材料事業	8,406	9,026	+619 +7.4
装置事業	△188	△139	+49 —
消去又は全社	△1,510	△1,615	△105 —

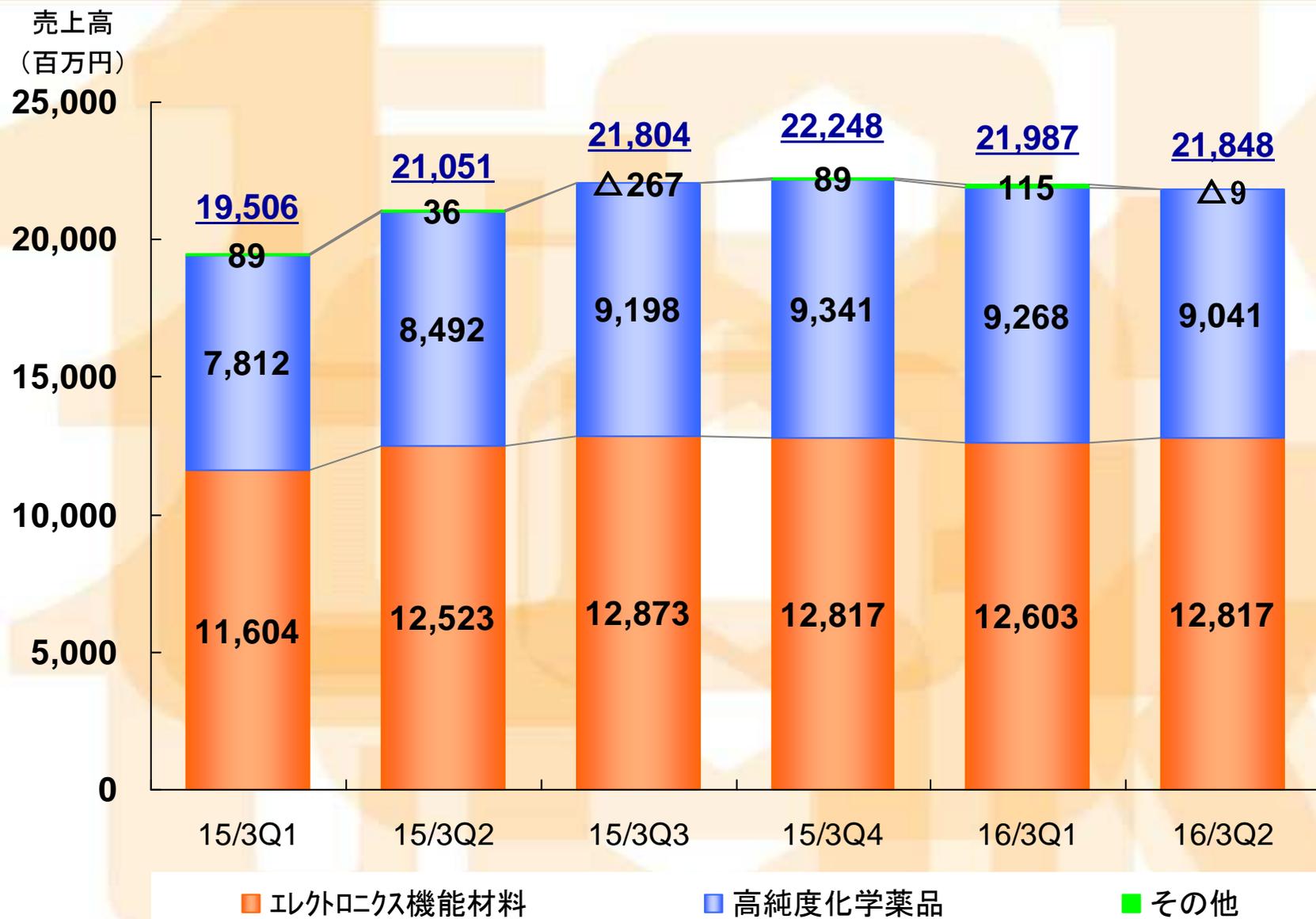
(注) 装置事業の売上は消去後の数字。

# 営業利益の増減内訳（材料事業）

2015年3月期上期実績 対 2016年3月期上期実績

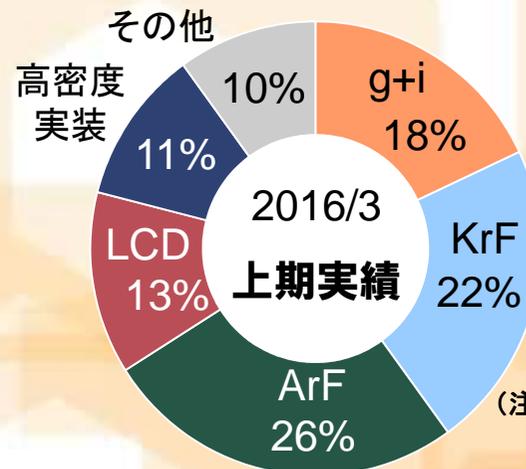
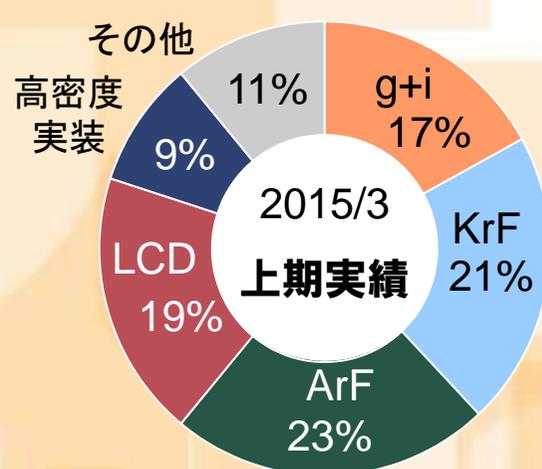


# 材料事業の売上内訳



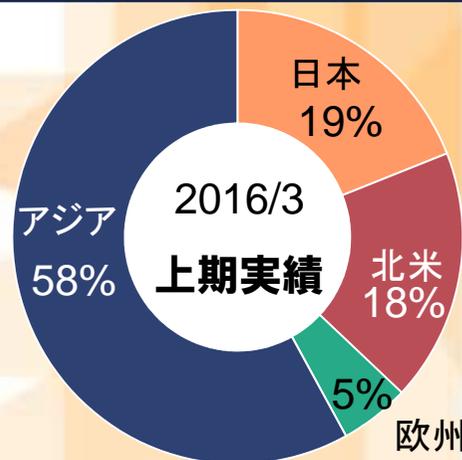
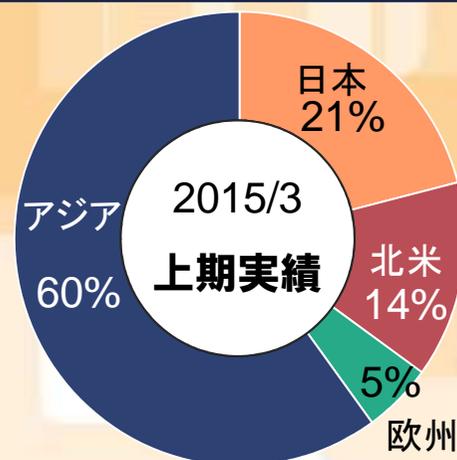
# (ご参考) エレクトロニクス機能材料部門

## エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成



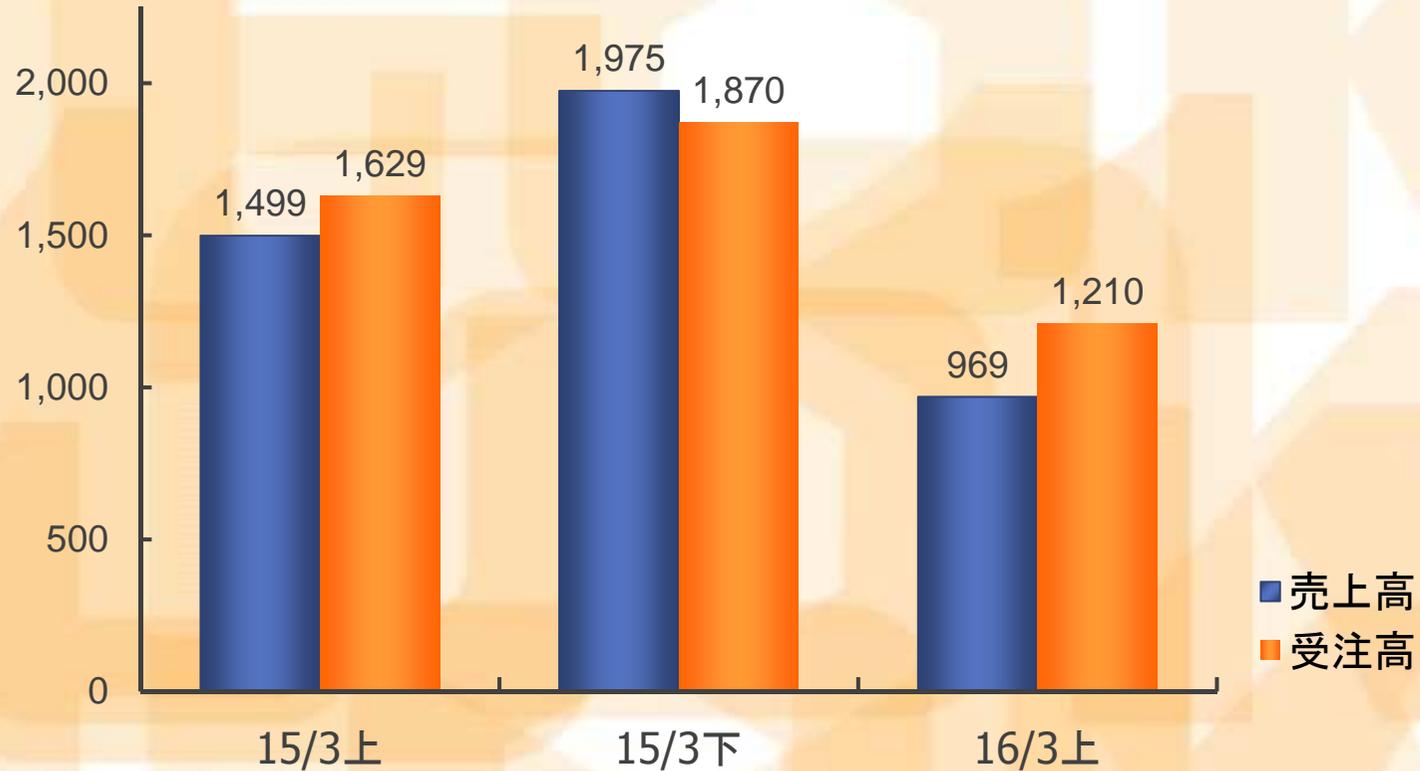
(注) 高密度実装:レジスト材料、MEMS材料

## 半導体フォトレジストの地域別売上構成



# 装置事業

売上高・受注高  
(百万円)



(百万円)	15/3上	15/3下	16/3上
期末受注残高	1,180	1,072	1,440

(注) 装置事業の売上は消去後の数字。

# 比較貸借対照表

(百万円)

	2015/9	15/3末比	
流動資産	86,558	△4,495	
現金預金	50,282	△3,684	
売上債権	18,682	△739	
たな卸資産	12,382	+826	
有形固定資産	49,038	△333	建物及び構築物 +3,055 機械装置 △551 工具器具備品 +1,032 建設仮勘定 △3,924
無形固定資産	889	△44	
投資その他の資産	33,047	△455	
流動負債	16,802	△2,492	
買入債務	7,326	△2,471	
固定負債	3,216	△352	利益剰余金 △575 自己株式 △2,098 その他有価証券評価差額金 △610 為替換算調整勘定 +401
純資産合計	149,514	△2,484	
総資産	169,534	△5,329	

# キャッシュフロー

(百万円)

	2014/9	2015/9
<b>営業キャッシュフロー</b>	<b>+7,447</b>	<b>+5,774</b>
税金等調整前当期純利益	+7,665	+7,384
減価償却費	+1,661	+2,685
貸倒引当金の増減(△)額	+52	△0
売上債権の増(△)減額	△1,670	+954
たな卸資産の増(△)減額	+674	△790
仕入債務の増減(△)額	+2,406	△2,624
前受金の増減(△)額	△688	+457
法人税等の支払い	△2,120	△2,480
<b>投資キャッシュフロー</b>	<b>△4,537</b>	<b>△3,093</b>
<b>財務キャッシュフロー</b>	<b>△809</b>	<b>△7,633</b>
<b>換算差額</b>	<b>△333</b>	<b>+223</b>
<b>現金及び現金同等物の増減(△)額</b>	<b>+1,767</b>	<b>△4,729</b>

主な内訳  
有形固定資産の取得 △1,893

主な内訳  
配当金の支払 △1,347  
その他(自己株式の取得等)  
△6,285

**2016年3月期通期  
連結決算予想**

# 業績予想概要（通期）

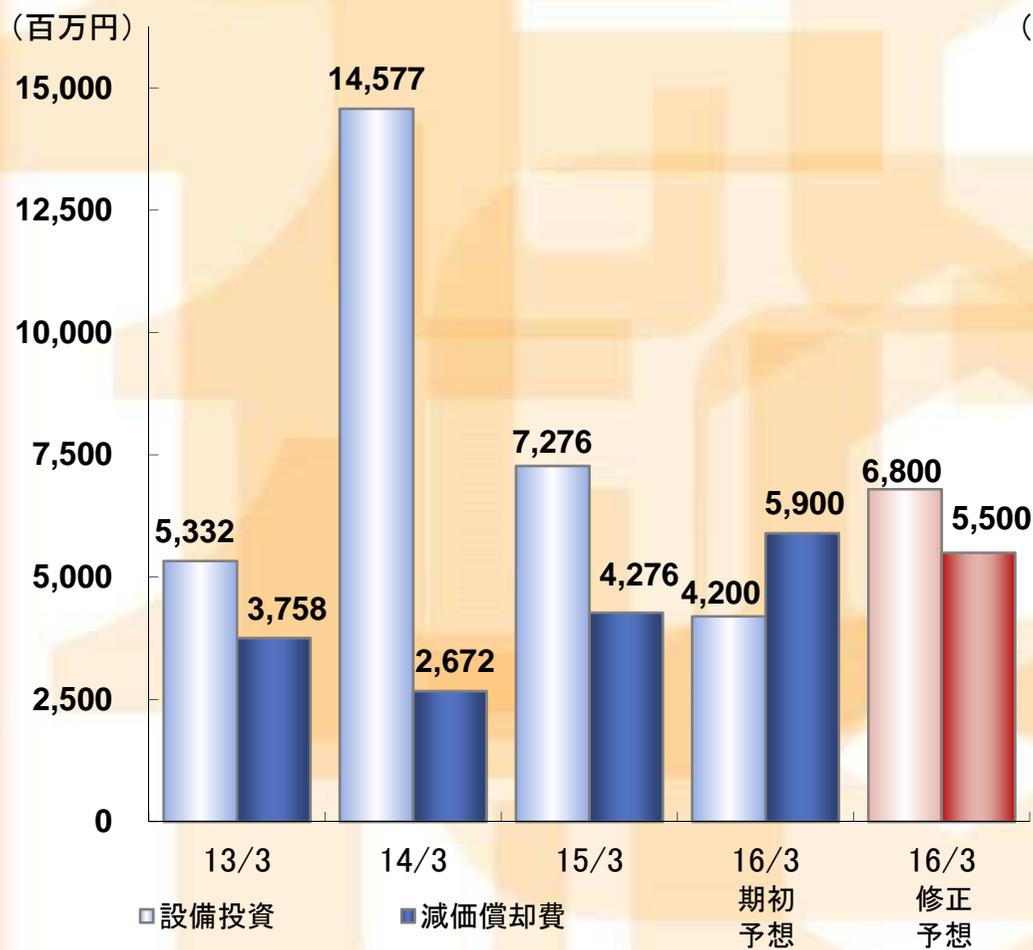
（百万円、％）

	2015/3 実績	2016/3予想	
		増減	増減率
売上高	88,086	92,800	+4,713 +5.4
営業利益	13,253	13,300	+46 +0.4
経常利益	14,443	13,200	△1,243 △8.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,818	8,600	△218 △2.5

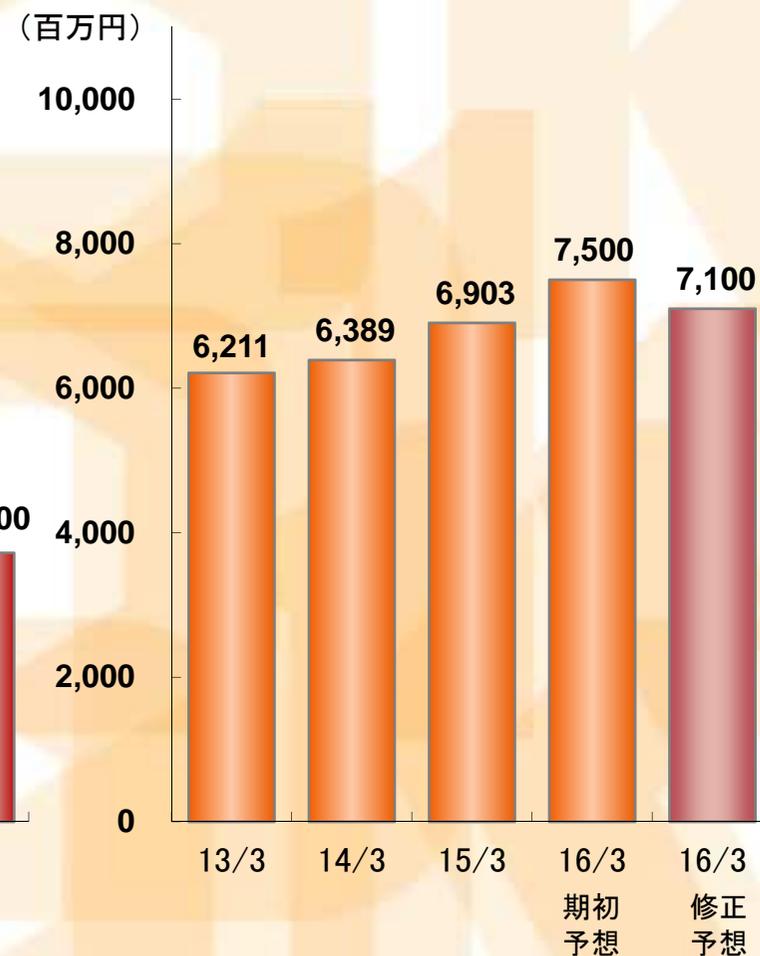
- 為替前提（USD/円）：109.3円/ドル（2015/3）⇒115.0/ドル（2016/3下期）
- 売上高：上期実績及び今後の半導体市場、LCD市場の減速、不透明感を勘案し、前年比+9.8%増から+5.4%増に下方修正。
- 営業利益：下期は減益予想だが、上期実績を勘案し通期予想は据置き。
- 経常利益：為替差益がなくなり、減益。

# 設備投資・減価償却・研究開発

## 設備投資/減価償却費



## 研究開発費



# 事業別セグメント業績予想

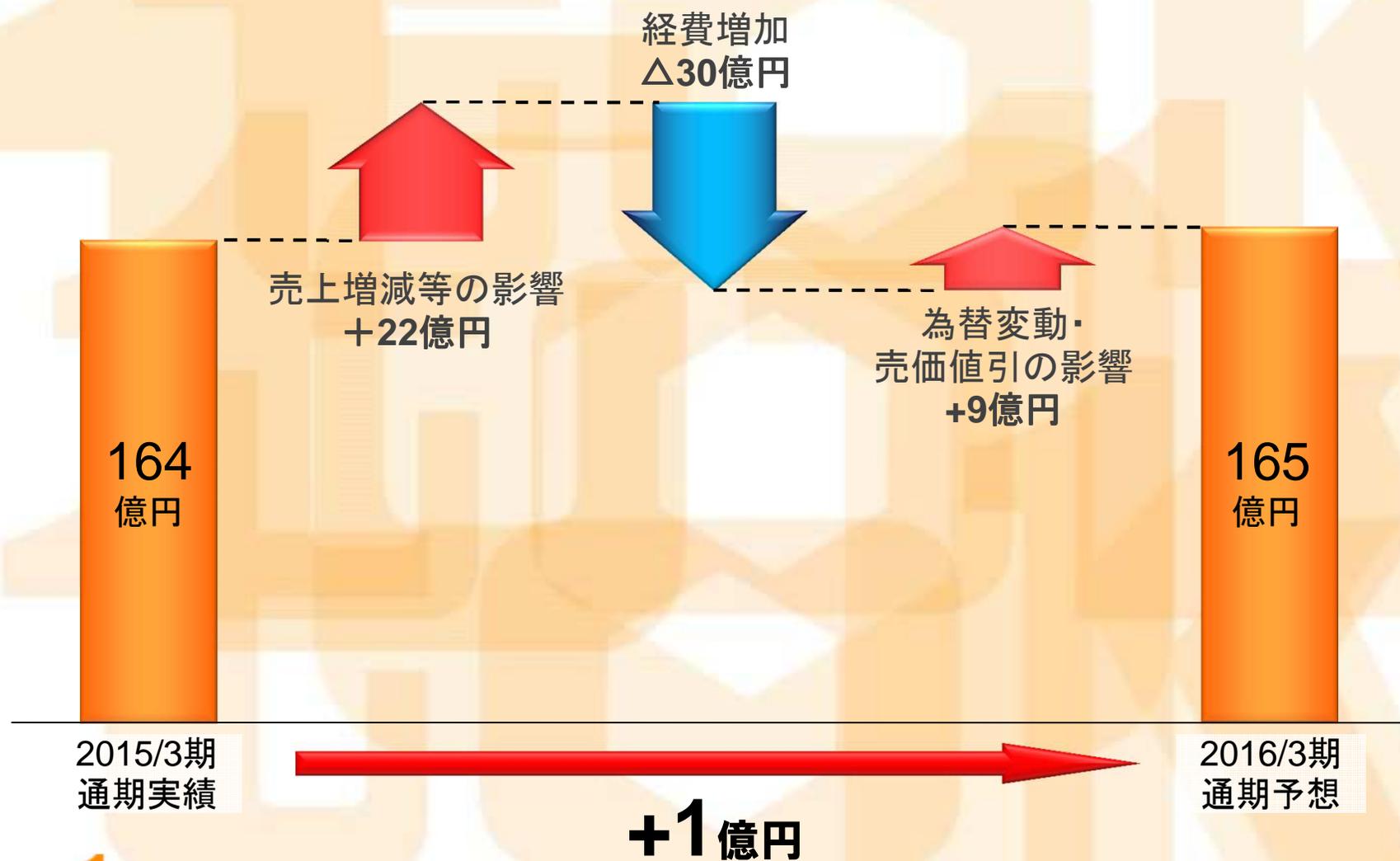
(百万円、%)

	2015/3 通期実績	2016/3通期予想	
		増減	増減率
売上高	88,086	92,800	+4,713 +5.4
材料事業	84,611	88,600	+3,988 +4.7
エレクトロニクス機能材料	49,818	51,500	+1,681 +3.4
高純度化学薬品	34,844	36,800	+1,955 +5.6
装置事業	3,475	4,200	+724 +20.8
営業利益	13,253	13,300	+46 +0.4
材料事業	16,355	16,500	+144 +0.9
装置事業	20	200	+179 9.8倍
消去又は全社	△3,122	△3,400	△277 —

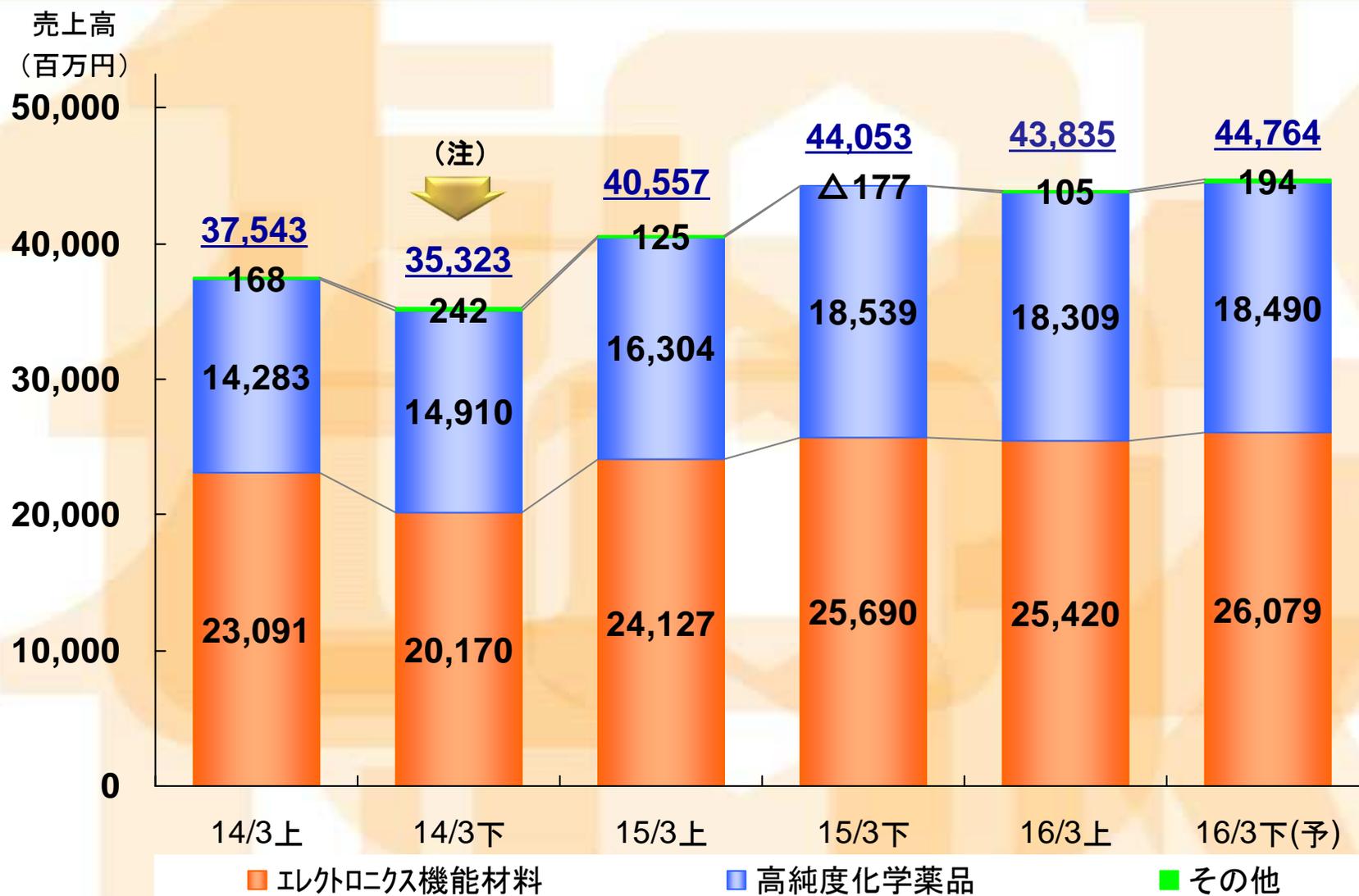
(注) 装置事業の売上は消去後の数字

# 営業利益の増減内訳（材料事業）

2015年3月期実績 対 2016年3月期予想



# 材料事業の売上内訳（予想）



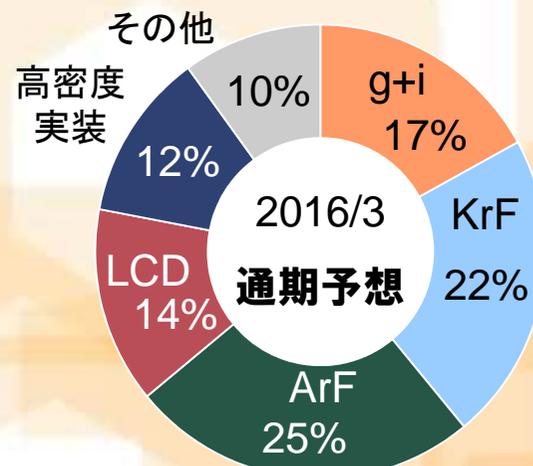
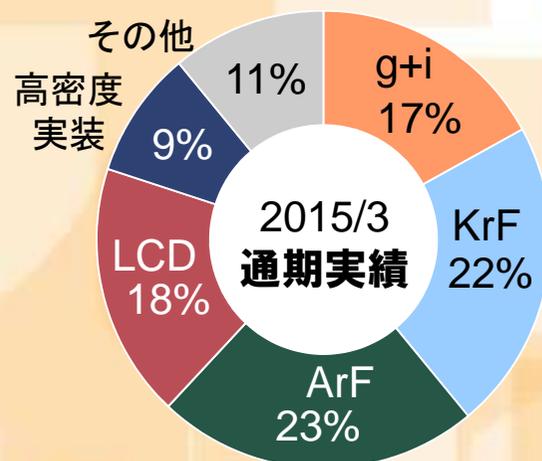
(注) 韓国子会社の営業開始に伴い、販路を一部変更しております。

東京応化工業株式会社と子会社間の決算期の違いから、14/3下の売上高にマイナスの影響が出ております。

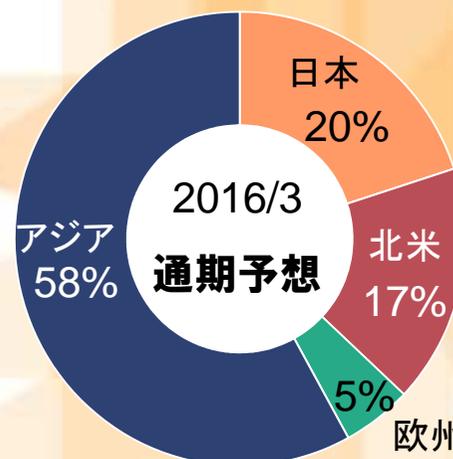
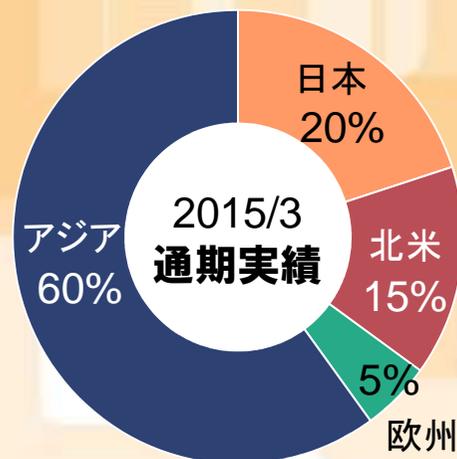
通期予想から上期実績を差し引いて下期予想としています。

# (ご参考) エレクトロニクス機能材料部門

## エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成



## 半導体フォトレジストの地域別売上構成





**トピックス**  
**～戦略投資の加速～**

# TOK尖端材料社（TOKAM）

生産水準の向上、海外R&D拠点としての機能を発揮

## 目標

- ArF1X世代における強固なポジショニングの確立
- ArFのシェアアップ・プラス $\alpha$ 効果の実現



2014年

: 既存製品の生産移管完了⇒TOKAMからの出荷開始

2015年

: TOKAM設立時の生産量目標をクリア  
: TOKAM開発製品の製造ならびに出荷開始



# 相模事業所におけるR&D機能強化

**相模事業所:** 材料事業における研究開発から、安定量産に向けた品質管理や生産技術を司るTOKグループの中核拠点

1967年 設立

↳

1997年 研究開発棟完成(KrF)

2006年 新研究開発棟完成(ArF)

KrF⇒トップシェア

ArF⇒シェアアップ



## 2015年 相模事業所のR&D機能強化

### ArFシェア30%の獲得

・継続的採用を勝ち取るためのインフラ強化

- ① 評価機会の増加による採用確率の向上
- ② 顧客スケジュールに合わせたタイムリーな開発
- ③ パターン欠陥「0」に向けた開発

### 戦略投資の実施

(2016/3下期～2017/3期)

主要導入設備

- ・High NA ArF液浸露光装置
- ・パターン欠陥検査装置
- ・コータデベロッパー装置

# 戦略投資の加速

## ■ 経費(材料事業)の推移



- 研究開発用装置、試作用設備等の固定資産を購入(⇒減価償却費)
- 装置の稼働に伴う運営及び保守点検経費
- 新規案件、新規顧客開拓に必要な製品開発、サンプル提供に係る経費 等々

## 研究開発/マーケティングテーマ(抜粋)

### <ArF>

- 10nm以降に向けた開発促進・採用獲得

### <KrF>

- 3D-NAND向け厚膜レジストの採用拡大

### <高密度実装材料>

- 台湾、中国市場の開拓(BUMPLレジスト)
- 新規顧客開拓、欧州市場開拓(MEMS材料)

### <LCD材料>

- 高解像性レジストの開発

### <高純度化学薬品>

- 10nm以降の更なる高純度化
- 現地密着型の洗浄液の開発

### <新規事業>

- 太陽電池材料、LiB材料、マイクロ二次電池、LEDフォトニック結晶、マイクロ流路形成レジスト、センサ用材料、他

<http://www.tok.co.jp/>

**（ご注意）**

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。したがって、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。